

揚げうどん 大飯店

今治・大西に根差して四半世紀。地元で愛される店として、ボリューム満点のうどんをはじめ、豊富なセットメニューをご用意しています。大西出身オーナーが繰り出す、話題性バツグンのキャンペーン情報にも注目ください。

CIKO

akoは、企業や個人が目指す世界の実現をサポートする企業として、PRや企画の領域で、戦略策定・実行を支援しています。

初心者からコツを掴んでマスターできるパソコン教室と、副業・転職・フリーランスを目指す社会人向けプログラミング教室の寺川塾。オンライン学習OK！自分が学びやすい環境で、キャリアアップを目指せます。



今治経済新聞の趣旨に賛同し

Supporter

応援して頂いているサポーター企業の皆さん

手作りのお弁当は、まるで家庭の味。プロが厳選したお米と、お客様の健康を考えた味付けが自慢です。毎日のお弁当はもちろん、スポーツ大会や会議など、様々なシーンでご利用いただけます。予算や好みに合わせて、お気軽にご相談ください。



地産地消にこだわり、瀬戸内海で獲れた鮮魚や旬の野菜を使って、お酒がススム美味しい料理をお作りしています。地元今治の方のご利用はもちろん、駅前の立地を生かして、観光や出張の方のご来店もお待ちしています。



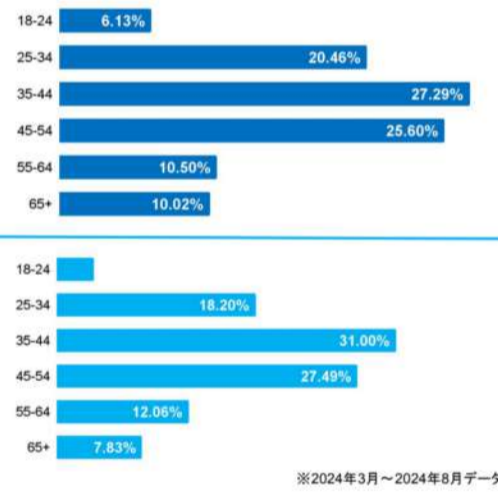
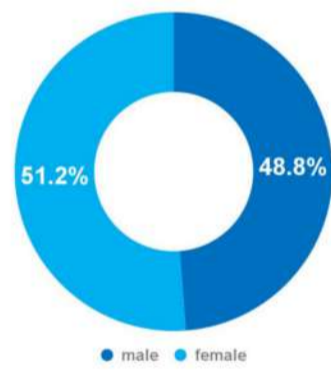
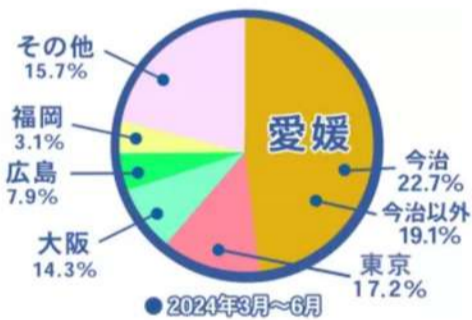
今治市玉川町にある農園。50アールの土地に約1200本のブルーベリーを植えて丹精込めて栽培しています。「ものづくり、人づくり、町づくり」を基本理念とし、より豊かな、地域づくりのために尽くしています。

ばりけいの活動を支援くださる「ばりけいサポーター」を募集しています。お預かりしたご協賛金は、取材や媒体の維持管理といった媒体運営のために活用させていただきます。ぜひ一緒に今治を盛り上げませんか？



サイトアクセス

ばりけいは、国内136エリアで展開する「みんなの経済新聞ネットワーク」の一員として、今治の魅力を広く発信しています。Yahoo!ニュースやLINE NEWSなど、誰もが利用する大手ニュースサイトにも記事を提供し、今治市民はもちろん、首都圏や都市部に住む今治出身者や今治に関心のある方々まで、幅広い層に情報を届けています。



編集体制

ライター3名、フォトグラファー1名を含む8名の編集部員が、今治の魅力を再発見できる、あたたかいニュースをお届けしています。



- 子どもたちが読める地元を作りた
- 話題の尽きない地域に
- 今治の人の温かみを伝えたい
- 今治の面白いところを紹介したい
- 取材を通して今治市民とつながりたい
- 撮影活動で今治の情報を発信したい
- ずっと住んでいる街をもっと知りたい
- 今治をもっと好きになりたい

運営会社

合同会社企画百貨は、企業や団体のコミュニケーション課題に対して、企画・情報開発による総合的な支援を行う会社です。ブランド戦略、広報活動、採用活動など、幅広い領域において、課題解決のサポートを展開しています。ビジョンは、「話題の尽きない地域をつくる」。2024年3月には、地域に根差した情報発信の場として、今治経済新聞を立ち上げました。

【会社概要】
会社名: 合同会社企画百貨
設立: 2023年9月
代表者: 小林祐太
所在地: 愛媛県今治市大西町之内甲516-2
従業員数: 4名 (パート・アルバイト含む)

ばりけいでは、貴社の商品やサービスを効果的にPRするための広告掲載を承っております。地域密着のばりけいだからこそ、効果的なプロモーションが可能です。広告に関するご相談も、ぜひお気軽に。

情報提供や広告に関するお問い合わせはこちらまで
info@imabari.keizai.biz

表紙 | カメラマンの一言

重茂山(標高291m)から望む景色は、大西地区の魅力が凝縮された絶景です。平野部では田園風景が広がり、中山間地では柑橘畑が豊かな風情を感じさせます。ランドマークである「新来島どっく」の造船所クレーン群が印象的にそびえ、その先には瀬戸内海が広がります。

写真家/グラフィックデザイナー 竹國照頭
1973年尾道生まれ、今治市在住。広告写真の撮影や中四国地域を中心に写真作品を撮る。写真教室の講師や講演など幅広く活動している。制作プロダクション「クレーテゴ」、「Setouchi PHOTO 写真教室」代表。



今治をもっと好きになるためのヒント集

barikei

こんにちは。
あなたと今治をつなぐニュースメディア
今治経済新聞です



Photo 竹國照頭

巻頭特集

今治のあの店あの味

2024年 注目のニュース10選。

数字で見るばりけい

NEW OPEN

「もっと今治を知りたい！」そんなあなたへ

今治経済新聞(ばりけい)は、今治に暮らす人、働く人、そして今治を愛するすべての人に向けたニュースサイトです。「今治の魅力を発掘する」を合言葉に、今治の今がわかる『ニュース』と、知的好奇心を刺激する『特集』で、あなたの毎日をもっと豊かに。Instagramでは、記事だけでは伝えきれない取材のウラガワや記者の気になったポイントを動画や写真で発信中。今治経済新聞と一緒に、今治をもっと好きになりませんか？

記事サイト Instagram



巻頭特集

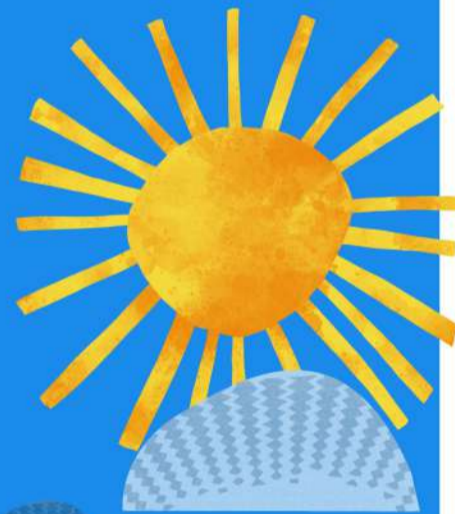
今治のあの店あの味

今治の街を歩けば、そこには店主の熱い想いが詰まったお店が。

街を彩る個性的なお店を通して、今治の魅力を再発見する旅へご案内します



オンライン版 ▶



今治の100年企業

弁当店「二葉」

4代目店主が守る 変わらぬ味



JR今治駅前にある「二葉」(今治市北宝来町)が2024年2月で100周年を迎えた。

4代目店主を務める野間靖大さんの先代が、1924(大正13)年2月の今治駅開業に合わせて開店した同店。靖大さんによると、開店以前は現在の吹揚小学校周辺で料亭を営んでいたという。駅に出店して以降は主に駅弁の車内販売を手がけていたが、利用者の減少などによりJRがサービスを終了。その後は日替わり弁当の配達を始めるなど、時代と共にサービスも変化してきた。元々は銀行員として働いていたという靖大さん。3代目店主である父が体調を崩したことをきっかけに、「やらなしゃないか」(靖大さん)と調理師学校に通い、家業を継いだ。2012(平成24)年には社長の座に就いた。現在は、駅構内に売店とうどん店、駅前に本店を構え、3店で営業する。靖大さんは「うどん店を開業するときには、香川まで泊まり込みで習いに行った」と振り返る。

看板メニューの「鯛めし」「瀬戸の押寿司」は変わらぬ味を受け継ぐが、時代に合わせて進化も。2年前に急速冷凍の技術を取り入れ、全国発送の対応を始めた。「冷凍だと300日間、日持ちし、味も生と変わらない」と太鼓判を押す。「100周年を迎えたが、あまり実感はない」と靖大さん。長い歴史の中で、特に「コロナ禍は大変だった」という。「駅に人がいなくなり、ゴーストタウンのようだった」(靖大さん)。そうした中、2021年にはテレビ番組「マツコの知らない世界」で同店の弁当が紹介され、全国から注文が殺到。「大きな話題となり、オンラインでもたくさん買っていただいた」と振り返る。「駅弁屋の数は年々減っていて、『絶滅危惧種』になっている」と靖大さん。「世の中も変化していく中で、これからはオンライン販売にさらに力を入れるなど、やれる限りは頑張っ続けていきたい」と意欲を見せる。

@ setonoosizusi

〒794-0028 愛媛県今治市北宝来町1-1-10 営業時間は本店=6時~18時、駅構内売店=8時~19時30分、うどん店=11時~18時30分。本店は日曜定休。



取材後のひとこと | 今治駅の開業と時を同じくし、100年の時を超えて愛される「二葉」さん。長い長い時を経た今も、人々に愛されるその理由は、先代から守り継がれてきた変わらぬ味へのこだわりと、時代の変化に対応する柔軟性にあると感じました。コロナ禍以前は年中無休で営業していたと聞いて、そのパワフルさにもびっくり。今は冷凍の鯛めしをふるさと納税や、オンラインでも展開され、全国各地でも楽しめるようになりました。駅弁文化が廃れていく中でも、これからも多くの人に楽しんでほしい、今治を代表する味です。

今治の気になる店

「ランタン」

月に1日だけオープンする 謎のスイーツ専門店



今治市中寺に、月に1日だけ店を開くスイーツ専門店がある。その名も「lantern(ランタン)」。昨年4月にオープンして以来、月に1日のペースで営業を続けている。

長年、福祉業界で働いてきたという店主。あるとき「全然違うことにチャレンジしてみたい」と転身を決意し、もともと好きだったという調理を仕事にしたいと考えたという。「信頼いただけるものをお客さまに提供したい」と、3年半ほど前から市内の菓子製造会社に勤め、菓子作りの腕を磨いてきた。

現在は菓子店勤務と並行して、月1日だけの営業スタイルを続けている。看板商品の「リースポテト」(2,400円)は、「舌触り滑らかでクリーミーな食感」に仕上げたスイーツポテト。店主が友人のために作ったところ好評で、2年間の試行錯誤を経て完成した自慢のスイーツだという。「見た目の新しさも追求し、リースのような円形にたどり着いた」と話す。「手土産に購入したい」というお客さんの声に応じて、スリムな「lantern POTATO」(1,480円)も11月より発売を開始した。

店がかつて倉庫として使われていた物件を購入し、リノベーションした。1階に店と菓子工房を構え、2階はまだ手を加えていない。店主は「今後、カフェスペースにしたり、イベントスペースにしたりということも考えている」と声を弾ませる。「今後、菓子店から独立し、営業日を増やすことも考えている」とも。「メニューを増やしたり、商品追加も考えていきたい」と意欲込む。

@ lantern.24

〒794-0840 愛媛県今治市中寺1087-3 営業は第4日曜日のみで、購入は予約制。予約はインスタグラムのDMで受け付ける。



取材後のひとこと | 長らく気になっていたお店「ランタン」を訪れました。丁寧に作られたリースポテトは舌触りがなめらかでとっても美味しい!聞くと、リピーターも多く、毎月予約開始から早々に売り切れちゃうんだとか。そして店主さん、実は古い師としての活動もされていて、私も体験してきました。結果は…ウフフ。気になる方はぜひお話しあれ。そしてオンライン版で今治人から反響が大きかったのが「カルマ」の記事。知らなければ通り過ぎてしまいそうな同店ですが、その味に虜になった熱狂的なファン多数!この時代に冷風機…、さすがオンラインワンのお店すぎます。

今治の気になる店

「カルマ」

20年超続く老舗スパイスカレー店 昨夏初めて冷風機導入



今治の老舗スパイスカレー店「カルマ」(今治市恵美須町)が8月、20年以上の営業にして初めて冷風機を導入した。

同店に看板などはなく、外観も初見では通り過ぎてしまいそうなほど素朴だが、店主・在間裕二さんが独自に調合したスパイスを使ったカレーが人気を呼び、現在では県外や外国人観光客も訪れる。メニューは一番人気のエビカレーのほか、チキンカレーやマトンカレー、ベジタリアン対応のカレーなどがあり、目玉焼きなどのトッピングも用意する。

今回の冷風機は、東京から定期的に訪れる常連客からももらったものだという。「扇風機やポータブルテレビなど、お客さまからももらったものは多いが、冷風機は初めて」と在間さん。設置してしばらくは使っていたが、現在は使っていないという。「稼働させても涼しいのは冷風機前の2、3席だけなのと、一日中使っているとプレーカーが落ちることもあり、今は入り口のドアを開けておけば、いい風が入るので(冷風機は)置いたままにしている」という。

以前は常盤町で看板のない喫茶店を営んでいたが、その時に作っていたカレーが好評だったのを機にのめり込むようになり、その後、カルマをオープン。それ以降はカレー一本で営業している。「カレーは暑い土地の食べ物だから、やはり暑い場所で汗だくになりながら食べてもらうのが一番」と在間さんはほほ笑む。

〒794-0031 愛媛県今治市恵美須町1丁目4-34 営業時間は11時~18時。木曜定休。



数字でみるばりけい

20 BARIKEI in NUMBERS 24

ばりけい創刊から10か月間の歩みを数字でふり返ります

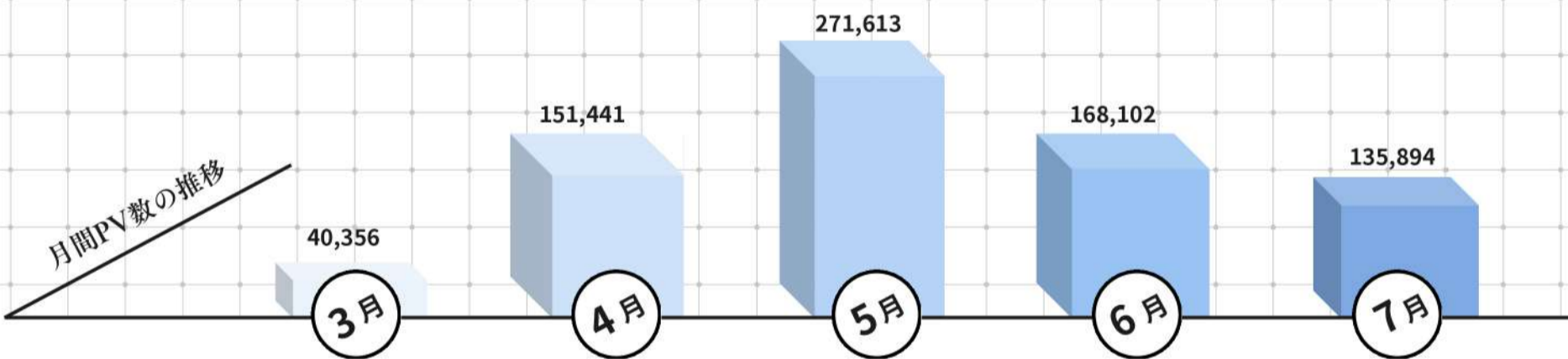
212 記事

ばりけいは創刊以来、読者の皆さまに役立つ情報を届けることを目指し、日々記事制作をしています。平日は毎日新しい記事を更新し、これまでに212本の記事を公開。月平均20本という豊富な記事数で、グルメ、まちづくり、新店・閉店、ファッション、アート、スポーツなど様々なテーマを網羅しています。



304536 PV

3月から読者数をグングン伸ばし、9月と11月には月間30万ページビューを達成しました。特に9月は、そよら今治馬越のリニューアルオープンや、県歴史文化博物館の「サンリオデザイナー展」のユニークなボムボムプリンに着目した記事など、読者の皆さんが気になる地元の話題をいち早く掘り下げ、過去最高のページビューを記録しました。ばりけいは今後も地域に根差した情報を発信し続け、読者の皆さまに愛されるメディアを目指します。



ばりけいの 2024年ふり返りカレンダー

去年のニュースといっしょに、一年をふり返るよ



5月29日掲載 | 鈍川温泉を舞台にしたミステリー映画撮影

砥部町出身の映画監督・大森研一さんが鈍川温泉でミステリー映画のロケをしたんよ。ロケ地になった鈍川温泉ホテルは2026年ごろのリニューアルオープンに向けて、撮影の後、解体されたんやけど、これからどんなになるんか楽しみやね。



6月3日掲載 | 片垣池周辺で300匹のホタルの舞

延喜の片垣池周辺の水路で「ホタル祭」が開催されたんよ。「当たり年」やった去年はゲンジボタルがよおけ飛び交ったよ。こんなにホタルが見れるんは、37年前に保護活動を始めた延喜ホタル保存会の皆さんのおかげなんよ。知ったった？



7月17日掲載 | 網敷天満神社で夏祭り「宮島さん」

桜井の網敷天満神社の境内にある厳島神社分祠の祭り「宮島さん」って知るとる？麦わらで作られた「わら舟」が海に流される珍しい祭りなんよ。地元の人らがわら舟作りを習って、文化を継承しよんやって。これからも続いてほしいやね。



3月14日掲載 | 大西の菜の花が見頃「私達きれいでしょう」

大西町脇地区の田んぼの菜の花が見頃を迎えて、一面の黄色いじゅうたんに。菜の花畑には「菜の花より」って書かれたメッセージ入りの看板が設置されとって、めっちゃ微笑ましかったよ。



4月25日掲載 | 玉川の「わらシシ」が4年ぶりに復活

稲わらで作った巨大な「わらシシ」が、鈍川に復活しとったんよ。5年間続いた「わらシシ」づくりがコロナで中断。地元の越智要さんが骨組みを引き取って、自分の畑で組み立てたんやって。すごいやね。



46 店

2024年、ばりけいは街を駆け巡り、続々とオープンする新店を取材。その数はなんと46軒！たくさん新しいスポットが誕生した今治市。新店のリストは7ページにまとめたので、ぜひご覧ください。



ばりけいでは、これまでに313人もの人々にインタビューしてきました。「こんなカフェがあったらいいな」と一念発起した20代の若者、Uターンして稼業を継いだ家具職人、伯方島のみかんの美味しさに惚れ込んで農家に弟子入りした移住者など、その活動は多岐にわたります。彼らのユニークな発想や熱い思いは、今治の未来を明るく照らしています。

67 イベント



楽しかったり、学びになったり。毎日どこかでそんな素敵なイベントが開かれている、ここ今治。「ばりけい」では、そんな魅力的なイベントを67件も紹介してきました。取材を通して感じた、イベントへの熱い思いや、参加者の方々の生の声。「こんなイベントがあるなんて知らなかった！」「私も参加してみたい！」そんな風にワクワクする情報をお届けしていきます。

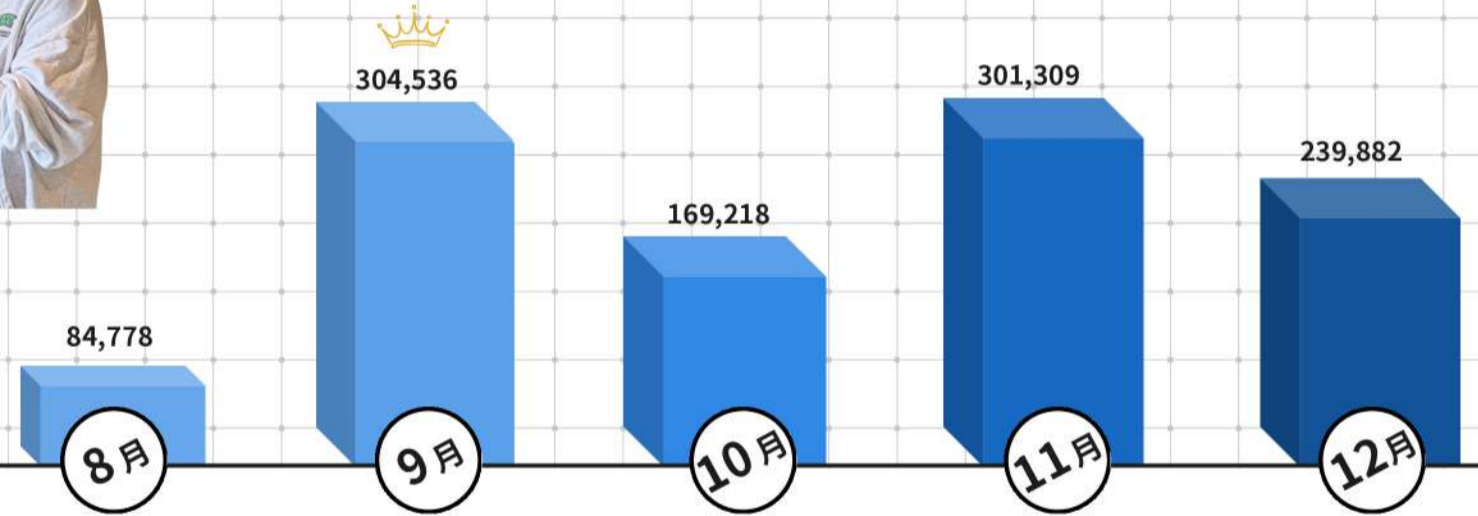


313 人



5 人にひとり

ばりけいは愛読してくださる皆さまのおかげで、今治市民5人に1人が読むメディアに成長中。読者の皆さまからの温かい応援が、私たちの原動力です。



8月23日掲載 | 本田圭佑さん考案の4人制サッカー「4v4」

元サッカー日本代表選手の本田圭佑さんが考案した4人制サッカー「4v4」の大会が今治で開かれたんよ。主導したんはFC今治高校明徳校に通う田口美羽さん。本田さんに手紙を送ったんがきっかけで、開催することになったんやって。すごかろ〜。



10月3日掲載 | JR松山駅の旧駅舎にたたずむバリオさん像

JR松山駅に新しい駅舎が開業したんやけど、旧駅舎のバリオさんを見た人から「バリオさんが取り残されとる」って、Xで目撃情報が相次いだんよ。後日談やけど、バリオさんはその後、無事に今治に帰ってきたんやって。よかったわ。



10月18日掲載 | 今治でも紫金山・アトラス彗星観測

紫金山・アトラス彗星が今治市内でも観測されたんよ。市内在住のカメラマン・竹園ゆかりさんは、大西の鴨池海岸から彗星の撮影に成功したんやって。水平線に向かって尾を引きながら沈んでいく光がパッチリ撮れとったよ。



11月14日掲載 | イオン今治店がリニューアルオープン

イオン今治店が「そよら今治馬越」にリニューアルオープンしたんよ。開業した1999年は「今治サティ」やったけど、時代の流れを感じるよね。県内初出店のサイゼリヤには、長〜い待ち時間を過ごすための待合所までできとったよ。



12月10日掲載 | 「日本一長い」今治タオルのマフラー

城南織物が「日本一長い」タオルマフラーを作って、SNSで投稿したんやけど、これが結構話題になっとったんよ。意外にも本当のマフラーほど長いタオルって、なかったんやね。タオル素材で肌にチクチクせんのがええよね。



記事の全文はオンラインで無料で読めるけんぜひみんな、読んでみてね。

今治経済新聞



2024年注目のニュース10選。

ぱりけいが創刊した2024年3月1日から12月31日までに配信した記事のPVランキングTOP10をご紹介します

2

1 今治に和食ランチ店「kurushima (クルシマ)」7年ぶりに復活

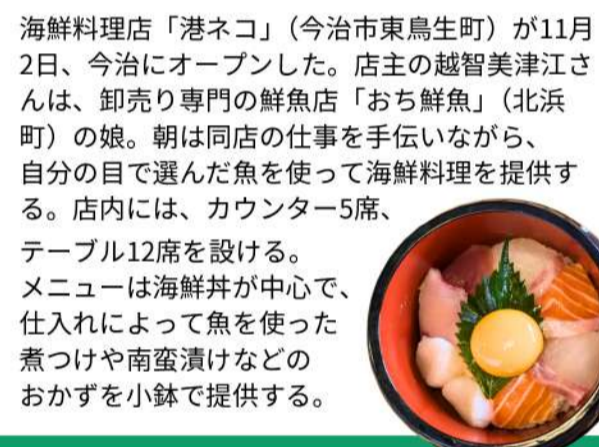


和食ランチやカフェメニューを提供する「kurushima (クルシマ)」(今治市喜田村)が、7月8日にオープンした。店主は今治市出身の北川綾子さん。同所で1996年から2017年まで20年以上にわたって和食店「くるしま」として営業し、当時料理長を務めていた大将と、二人三脚で店を切り盛りする。

高校生が絵付けした素焼きのポムポムプリン、SNSで話題に サンリオ展で

愛媛県歴史文化博物館(西予市宇和町)の特別展「サンリオオデサイナー展」で展示されている、独創的な絵付けを施された素焼きのポムポムプリンが、Xで話題を集めた。素焼きのポムポムプリンに色付けし世界に一つだけの作品を作るもので、館内に展示した作品例を見たという「縄文ZINE」さんが9月2日、「参加者の作品のレベルが高すぎる」とXに写真を投稿。投稿には1万以上のリポストと5万以上のいいねが付いた。(記事掲載=9月5日当時)

5 今治に海鮮料理店「港ネコ」地元鮮魚店の娘が出店、海鮮丼中心



海鮮料理店「港ネコ」(今治市東鳥生町)が11月2日、今治にオープンした。店主の越智美津江さんは、卸売り専門の鮮魚店「おち鮮魚」(北浜町)の娘。朝は同店の仕事を手伝いながら、自分の目で選んだ魚を使って海鮮料理を提供する。店内には、カウンター5席、テーブル12席を設ける。メニューは海鮮丼が中心で、仕入れによって魚を使った煮つけや南蛮漬けなどのおかずを小鉢で提供する。

8 今治・波方に手打ちそば店「一仙」コシの強い上州産そば粉使う



そば店「しまなみ蕎麦一仙(いっせん)」(今治市波方町)が10月29日にオープンした。群馬産の粘りやコシの強いそば粉を使い、手打ちで提供する

同店。今治商工会議所職員を23年間務めた仙波良洋さんが、そば打ちの道へ転身し、開業を果たした。開業の経緯について、仙波さんは「これまでいろいろビジネスをサポートしてきた中で、自分も経営者として事業に向き合いたいという思いが強くなった」と話す。

おにぎり専門店「MINE(マイン)」(今治市常盤町)が9月30日、今治・どんとび交差点にほど近い常盤通り沿いにオープンした。テイクアウト販売がメインだが、12席のイートインスペースも設ける。

10 今治・常盤町におにぎり専門店「マイン」地元野菜を使ったサラダも



今治・大西「得得うどん」が定食無料提供「食い逃げしてくれませんか」



今治の「得得うどん」(今治市大西町)が、「スタミナ丼定食」を無料提供した。新メニューの試食テストを目的に据え、チラシには「食い逃げしてくれませんか」の文字が躍る。

店主の中西裕二さんによれば、同店では毎月、「お客さまに喜んでほしい」とさまざまなキャンペーンや企画を行っている。「うどんと丼でしっかり満腹になってほしい」と呼びかけていた。

4

「食堂ヨラス」(今治市馬越町)が5月23日、1カ月のプレオープン期間を経てグランドオープンした。店を営むのは、山本理恵さんと松田直浩さん・百代さん夫婦。「素材のおいしさを引き出した料理」が特徴。



西条高校前にカツ丼店「道」火事で閉店した今治の食堂「たつ」の味再現

カツ丼店「道(みち)」(西条市明屋敷)が5月10日、西条高校正門前にオープンした。同店を開業したのは、今治市別名で43年にわたって営業し、火災で5年前に閉店を余儀なくされた食堂「たつ」の店主の長女・福田恵子さんと夫の高広さん。「店の味を引き継ぎたい」という高広さんの熱意が、開店のきっかけになったという。

6 今治の老舗餅店「あわびや餅店」今年も販売開始 26歳店主が開発



「わらび餅」の販売を始めた。(記事掲載=5月25日当時)創業270年以上の歴史を持つ同店だが、わらび餅を作り始めたのは3年ほど前。26歳の10代目・近藤駿次郎さんは「先代の頃からお客さまに『わらび餅は置いていませんか?』と度々聞かれることがあり、その要望に応えようとラインアップに加えた」と話す。

今治・本町「あわびや餅店」のわらび餅、今年も販売開始 26歳店主が開発

造船所が立ち並ぶ今治市の波止浜湾内で5月24日、新しく建造されたケミカルタンカーが初めて海に進水する瞬間を盛大に祝う進水式が浅川造船(今治市小浦町)で行われた。

今治・浅川造船でケミカルタンカー進水式 餅まき・タオルまきも盛大に

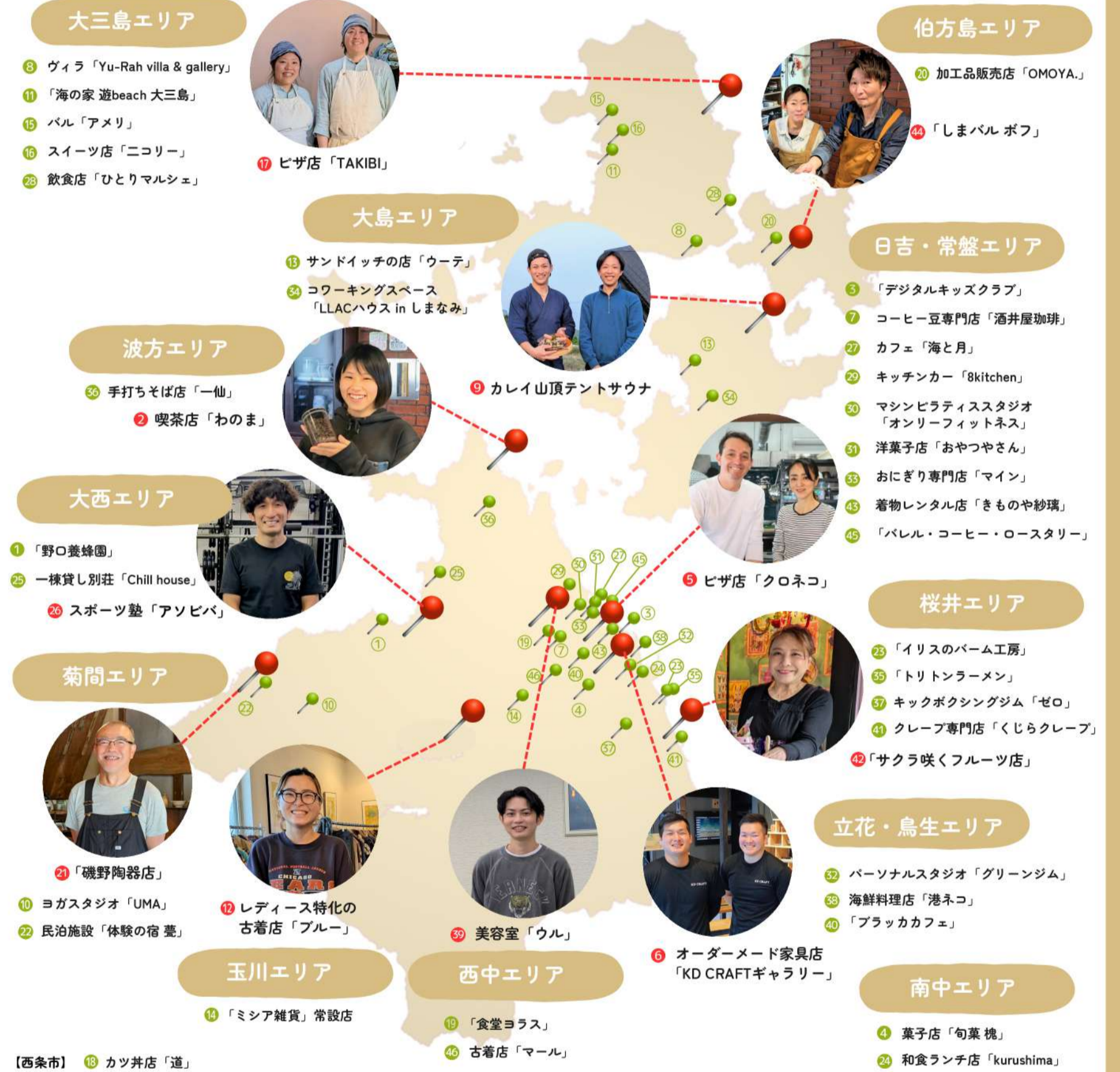


当日も多くの市民が駆けつけ、船の建造に関わった人々や地元への感謝の気持ちを込めて盛大に祝った。

9

今治に誕生した新しいスポット NEW OPEN

ぱりけいが2024年に紹介した46の新店をエリア別にマッピング。1番からオープンが早い順に並べました。



ぱりけい取材履歴マップ

2024年3月からのスタート以来、今治経済新聞は市内全域を駆け巡り、皆さんの毎日を彩るニュースをお届けしてきました!今回、取材スポットをGoogleマップにまとめました。飲食店リストは、ランチやディナー選びにぴったり。ぜひご利用ください。リストは随時更新されますので、お楽しみに!

ぱりけい取材先一覧

これまでに編集部が取材・記事化した全スポットをご覧いただけます



ぱりけい飲食店マップ

これまでに今治経済新聞で紹介した飲食店が全て載っています

